

Book Review

歯科衛生士のための 歯科診療報酬入門

公益社団法人日本歯科衛生士会 監修
鳥山佳則・石井拓男・武井典子・吉田直美・金澤紀子 編集

● ● ●

Reviewer

堀 憲郎 Kenro Hori

(公益社団法人日本歯科医師会 会長)

B5判, 256頁
定価(本体3,700円+税)
医歯薬出版刊



わが国の急激な少子高齢化を背景に、歯科医療のあり方も、かつての歯や欠損の「形態を回復する」歯科医療から、超高齢社会の疾病構造に即した「口腔機能の維持・向上に資する医療」へと変化しつつある。

われわれ歯科医療を提供する立場からは、超高齢社会では単に長く生きることだけを目指すのではなく、「食べる」「話す」「笑う」という日常生活の基本的な機能を人生の最後まで全うするべきであるという明確な方向性を示してきた。そしてその部分において、歯科医療や口腔健康管理が大きな役割を果たすことを、多くのエビデンスを示しながら発信してきた。

平成24年度診療報酬改定において導入された「周術期口腔機能管理」などは、そのような方向性を示したものといえる。また特にここ数年は、歯科

界が続けて来た発信について国民的な理解が深まり、骨太の方針2017にも「口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む」との文言が明記された。

さらに国の医療政策自体も「地域医療計画」「地域包括ケアシステム」などの言葉が示す通り「地域完結型の医療」にシフトしており、従来の「治す医療」から多職種の連携のうえで提供する、「生活に寄り添う医療」「生きがいを支える医療」が求められるようになってきている。

このような大きな流れのなかで、歯科衛生士の業務が重要性を増すことは当然の流れであり、近年の診療報酬改定でも歯科衛生業務にかかわる項目が

増えるとともに、その部分を評価する方向にある。

歯科衛生士にとっても、歯科医療提供者の一員として「医療保険制度」やみずからの業務を評価する「歯科点数表」の仕組みについてしっかりと理解したうえで実際の業務を担当することが重要になるが、一般的に保険点数の仕組みは難解な部分が多く、特に歯科衛生士が内容を理解するためのセミナーやテキストブックは少なかったといえる。

このたびに発行された「歯科衛生士のための歯科診療報酬入門」は、歯科衛生士が、その業務に関する保険点数の評価の仕組みを理解するために、俯瞰的な解説をしつつ、個別の業務別に必要な知識をきわめてわかりやすくまとめたガイドブックである。